～市民と農業者をつなぐ
武蔵野市農業委員会だより～

むさし農

第23号　令和６年11月
編集・発行　武蔵野市農業委員会
〒180-8777 武蔵野市緑町2-2-28
Tel　0422-60-1833（直通）
Fax　0422-51-9408（直通）

11月10日はエコreゾートへ！
～武蔵野市農産物品評会～

日時	令和６年11月10日 午前９時～
会場	むさしのエコ re ゾート （緑町３－１－５） ※市役所の北側です！
主な イベント	・農産物の展示・即売会 ・宝船・宝分け ・ジャガイモの詰め放題 ・キッチンカー　　など

武蔵野市の農業を知ることができるイベントです。
たくさんの方のご来場をお待ちしています！

夏野菜品評会

７月４日に夏野菜品評会を開催し、15名から33点の出品がありました。品評会は、農業者の技術の向上に寄与することを目的にしています。

市長賞を受賞した井口さんは、丁寧にタネを選別することで良質な苗を育て、植付けを行っています。

朝も４時半頃から畑に出て、作物の成長を見守っている毎日です。

都の審査員からは、自分でも買いたい程見事な出来栄えだったとのコメントをいただきました。

武蔵野市長賞	井口　義一 （関前）	エダマメ
武蔵野市 農業委員会会長賞	井口　義一 （関前）	トウモロコシ
東京むさし 農業協同組合長賞	坂本　和人 （関前）	トマト
武蔵野市議会 議長賞	坂本　和人 （関前）	キュウリ
武蔵野商工会議所 会頭賞	櫻井　敏史 （関前）	ナス

（敬称略）

行政視察の再開

▲田中南砺市長よりごあいさつ

▲意見交換の様子

武蔵野市の友好都市である富山県南砺市を視察先として、３年ぶりに農業委員行政視察が行われました。視察当日は、農業委員会との意見交換や耕作放棄地対策も視野に開設されたワイナリーを見学しました。

南砺市農業委員会との意見交換は南砺市役所で開催され、南砺市・田中市長も登場。能登半島地震の影響や相続税の問題等をはじめとした現状について両委員会から活発な意見が交わされました。

また、一行は南砺市立野原西でブドウを栽培し、ワイナリー Domaine Beau（ドメーヌ・ボー）を営むトレボー株式会社を見学。「情熱は伝播する」をキーワードに掲げて取り組む、同社中山社長の熱いお話も拝聴しました。

新型コロナウイルス感染症の影響によりしばらく実施できていなかった行政視察ですが、委員にとって武蔵野から遠く離れた地を訪れて得たものも多かったようです。

意外と知らない⁉農業委員会の活動

農業委員会

- **農地利用 特別委員会**
  - 農家見学会・農地パトロールの企画・立案 等
- **農業経営 特別委員会**
  - 認定農業者・都市型認定農業者制度の推進・普及 等
- **広報 特別委員会**
  - 「むさし農」の編集・発行 等

武蔵野市農業委員会には３つの特別委員会があり、それぞれの特性を生かし、事業やイベント等の検討を行っています。

武蔵野市は、北多摩地区農業委員会連合会の会長市となり、約１年が経過しました。

北多摩地区は都市農業が特にさかんな地域です。

17 の自治体からなる連合会のトップとして、都市農業をけん引していくと共に、都市農業の重要性を関係機関へ伝えています。

▲北多摩地区優秀農業経営者表彰式

農業体験の受入れ

中村健二さんのお宅では…

ブルーベリーは宝探しをしているようで、たわわに実っているのを見つけるのが本当に楽しかったです！
農業体験は地方に行かないとできないと思っていたので、都市部に畑があることがとても良い環境だと思いました。
快く受け入れてくださり、感謝しています。

８月に大学生の職業体験の受入を行いました。

中村さんのブルーベリー園は、市内で一番歴史のある場所。何と若海さんが幼少期に摘み取りを行った所縁のある場所でした。

若海さんは、高校生の頃から、農家の職業体験に行きたいと切望していたとのことで、中村さんが快く引き受けてくれました。

７～８月にかけて、ブルーベリーの摘み取りは最盛期。猛暑ではありましたが、中村さんとスタッフと一緒に、約 10 日間収穫・選別の体験をしました。

中村さんからは「最初は何が何だかわからない状況だったとは思いますが、スタッフに教えてもらいながら仲良くやっていました。ちょうどシーズンなので、即戦力となり、大助かりでした」と嬉しそうにお話をされていました。

大学で農業について学ぶ若海さん。将来の農業を担う一員として、活躍を期待しています。

櫻井義則さんのお宅では…

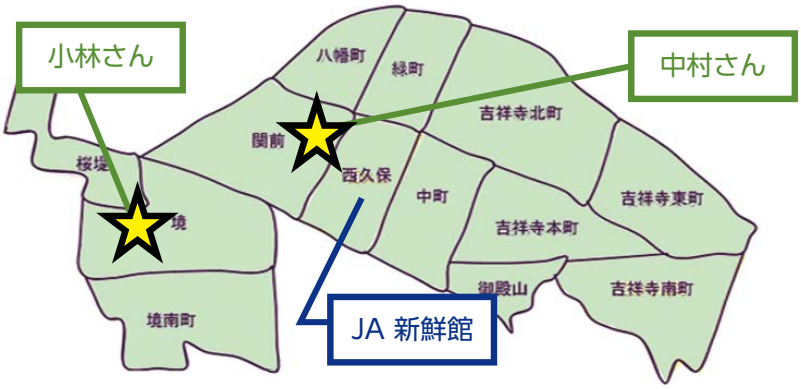
櫻井さんは、後継者問題を踏まえ、新しい農業のかたちについて、日々取り組んでいます。

保育園から芋ほり区画を提供してほしい、市民農園経験者から農家と一緒に作業したい、農家見学会に参加した児童が手伝いをしたい等の希望を受け、市民農園でも営農ボランティアでもない農業に携わりたいという方を対象に、一緒に耕作ができれば…という新しい発想が生まれました。

今は、週２回畑に来て、手伝ってくれている方がいます。一画で苺を作ってみたいとのことで、櫻井さんは口も手も出さずに少しばかりのアドバイスのみ！

野菜を持っていって良いよ！と言ったら、形の良いのを選んでいたそうですが、最近では味が変わらないので、曲がって大きくなったキュウリ等でも持って帰るようになったと笑いながら話してくれました。

New Face



新しく農業を始めた方を紹介します

小林　賢治さん（境５丁目在住）

会社員生活を経て、今春就農したばかりの小林賢治さん。新人です。

どのような品目がいいか、作付けの時期はどうしたらいいか等、近隣の農家仲間からの助言を受けつつ、学ぶ日々を過ごしています。現在、畑に直売所がないため、農家仲間の直売所で一緒に販売を行っているとのことです。

先代までは、植木・グランドカバーに力を入れていましたが、これからは時代や環境に合わせた野菜作りをメインにしていきたいそうです。

若手農家との繋がりを大事にし、地域の中核的農業者となるよう、応援しています。

中村　智裕さん（関前３丁目在住）

令和５年４月から１年間、立川市にある農研機構での果樹部門の研修を経て、令和６年４月に就農しました。

現在は、父が栽培しているブルーベリーの補助を行いつつ、いろんなことを学んでいます。新しいことを覚える毎日が、とても楽しいそうです。

最近は、イチジクのコンテナ栽培を始め、武蔵野市内でも珍しい品目に挑戦中です。

今後は、いろんな果樹の品目にチャレンジし、どんどん増やしていきたいと意気込んでいます。

これからの取組に期待が膨らみます。

編集後記

収穫の秋、例年にない猛暑を乗り越え、今年も各農家ではたくさんの野菜・果物が採れています。11 月 10 日には、日々丹精込めて生産された、新鮮で美味しい市内産農産物の品評会・即売会が開催されます。皆さん是非お越しください。

今号も取材や原稿作成にご協力いただいた皆さんに心から感謝申し上げます。

スマホで検索

農業委員会だよりはこちら↓

直売所マップはこちら↓

アンケートはこちら↓